



ギャラリー展示

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：970千円

メディアデザインウィーク

目的・趣旨

本学デザイン学部メディアデザイン教育の一環として制作された成果の情報発信と、本学学生及び一般市民に向けた啓発的なイベントの実施。

日時・場所

平成30年2月5日から平成30年2月11日
静岡文化芸術大学

体制

(実施代表者)	デザイン学部	デザイン学科	教授	的場 ひろし
(実施分担者)	デザイン学部	デザイン学科	教授	長嶋 洋一
	デザイン学部	デザイン学科	教授	日比谷 憲彦
	デザイン学部	デザイン学科	准教授	かわ こうせい

共催・後援等

(後援) 浜松市、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、FM Haro!

内容

下記の3つの要素で構成されるイベントを実施した。

- メディアデザインに関連する本学部の科目において制作された学生作品（3年生を中心に、2年生、1年生の作品も含む）の西ギャラリーでの展示
- メディアデザインに関わる様々な分野から招いたクリエイターによる講演会
- 専門家を講師として招き、物理コンピューティングをテーマとする講義と作品制作で構成されたワークショップ



チラシ（表）



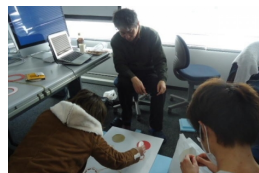
チラシ（裏）

結果・成果

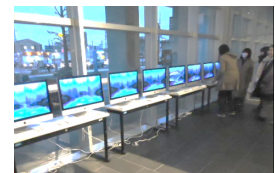
作品展示、講演、ワークショップのそれぞれにおいて、参加者から良好な反応を得ることができた。展示においては、メディアデザインに関連する本学部の科目、「総合演習1」「インタラクティブプロダクト演習」「メディア数理造形演習」「グラフィックデザイン演習A」「基礎演習E」の5科目において制作された学生作品計66作品の展示を西ギャラリーにて行った。展示の中心的存在となった3年生の必修科目「総合演習1」では、デザイン学科発足後初の総合演習作品として、2領域5ゼミから計24作品が展示された。平面作品、映像作品、立体作品、インスタレーション作品、PCゲーム等、様々な形態の作品が並び、本学が取り組むメディアデザインの多様な方向性を示すことができた。講演会では、アートディレクターの川上恵莉子氏、電子楽器設計者の三枝文夫氏、グラフィックデザイナーの松永真氏（本講演のみ「イブニングレクチャー」との共催）、タイプフェイスデザイナーの立野竜一氏、映像アーティストの水野健一郎氏、ゲームデザイナーの西角友宏氏の6名が登壇し、それぞれの分野の最新の話題や歴史について講演を行った。本学学生や一般市民が多数参加し、アンケートには、有意義な内容を聞ける貴重な機会だったとの意見が多く見られた。特に、立野氏の講演では、本学の授業には無いカリグラフィー実習が組み込まれており、参加者に新鮮なデザイン体験を提供する機会となった。ワークショップは、長谷部雅彦氏、照岡正樹氏、落兎子氏の3名の学外からの講師と、本学教員の長嶋教授によって、物理コンピューティングをテーマとする講義と作品制作で構成する形態で実施した。参加者は講義を受講した後に二班のグループに分かれ作品制作に取り組み、ワークショップ最終日には作品発表と講評が行われた。短時間ながら二班とも、受講した講義内容を踏まえてまとめた作品を制作することができた。以上述べた、作品展示、講演会、ワークショップの、相互に深く関連する三つの要素からなる本イベントによって、本学学生と一般市民に対して、メディアデザインに関する啓発的な機会を作ることができ、本学部の教育成果を学内及び学外に情報発信できたと考えている。



講演会の様子



ワークショップの様子



ギャラリー展示